

臨床検査技師を「検査＋事務」で採用する キャリアパスのご提案

令和8年9月

小川理税理士事務所

ご提案の要点

臨床検査技師を「検査と受付事務」の正社員として採用し、入職後に事務長へ進めるキャリアパスを示すことを提案します。「事務もやる」を回り道ではなく将来の選択肢として示すことで、応募と定着の両方が期待できます。

1

正社員で兼務採用

検査と受付事務を兼務する
正社員として採用します

2

事務長へのキャリアパス

兼務から事務の主任、事務
長へ進む道を示します

3

検査業務を必ず残す

どんなに事務が忙しくても、
一部の検査は職務に残しま
す

なぜ臨床検査技師か

3,976人

第72回臨床検査技師国家試験の合格者
数(2026年3月発表)

毎年4,000人近くが
国家試験に合格

病院の正規職の求人は非常に少ない

臨床検査技師は毎年4,000人近くが国家試験に合格します。その一方、病院の正規職の求人は非常に少なく、何年も非正規で働きながら正社員の職を探している人が多い職種です。

採用は欠員待ちになりがち

病院の検査部門はそもそも従来から定員が少ないところ、近年は検体検査の外注化や自動化も進んでいるため、技師の採用は欠員待ちになりがちです。

正規職に就けなかった人の進路

正規職に就けなかった人は、次のような仕事をしながら就職活動をしています。

健診センターの
アルバイト

大学などでの非常
勤の研究補助

離島などの病院の
代替職員

コンビニなど臨床
検査とは全く関係
の無い仕事

臨床検査技師にできること

臨床検査技師は、採血や検体採取、心電図・超音波・呼吸機能などの生理学的検査を医師の指示のもとで行えます。受付や事務も含めて任せれば、事務部門の人手不足と、医師の検査業務の負担を同時に減らせる人材です。

兼務から始め、検査が分かる事務長へ進む

入職～2年目

検査と事務の兼務 (正社員)

- 検査:採血、心電図、検体検査、エコー検査のトレーニング
- 事務:受付、会計、予約管理、釣銭管理
- 支援:院長・先輩による実務指導、外部研修への参加



3～5年目

事務の主任 (検査も継続)

- 受付・会計・レセプト業務のリーダー、新人スタッフの指導
- 検査:採血・心電図・一部のエコー検査などを曜日を決めて担当
- 目標資格:医療事務・診療報酬請求の資格



6年目以降

事務長

- スタッフの採用・シフト、経営数値の管理、補助金申請の管理・調整
- 検査が分かる管理者として院長の補佐業務、院内検査の精度管理
- 検査の外注費・レセプトの点検、検査機器の更新・保守契約の管理、担当検査の継続

事務が忙しくても、一部でよいので検査業務は必ず残す(例:心電図、甲状腺エコー)

キャリアパスの考え方

1 事務の責任者として育てる

入職後2年ほどは検査と事務を兼務し、3～5年目に事務の主任、6年目以降に事務長へと進むキャリアパスを提案します。事務を「資格を活かせない仕事」ではなく、検査が分かるからこそその管理者への道として示すことが、この提案の中心です。

クリニックでは検査だけの専任職は置きにくいいため、事務の責任者として育てる道に絞っています。どの段階でも検査業務は続けるので、臨床検査技師としての技術と資格の価値は失われません。年数は目安で、クリニックの規模に合わせて調整します。

2 新卒の学生にも十分に届く

新卒の学生はかなり病院志向の強い人が多いですが、4月、5月あたりになるとさすがに考え方も変化してきます。

キャリアパスを示し、当直が無いメリットをしっかりとアピールすれば、十分に採用の可能性にあります。

ポイント:検査業務を必ず残す

どんなに事務部門が忙しくても、検査業務を職務からなくさないことが、このキャリアパスを成り立たせる最も重要なポイントです

一部の検査だけでもよい(たとえば)

心電図

甲状腺エコー

職員健診の採血

検査から離れると技術が落ち、本人も「臨床検査技師として採用された」実感を失って不安になり、病院の求人が出たときに離職しやすくなります。自分がやるべき検査業務が確保されている、というのが臨床検査技師の安心材料になります。週に何回、どの検査を担当するかを、主任・事務長になっても職務として決めておきます。

求人と処遇の示し方

求人票では「正社員」「臨床検査技師として採用」「入職後のキャリアパス」の3点を最初に示します。事務の仕事があることはしっかりと記載し、クリニックを総合的に見られる人材に育ててほしいという期待を表現するのがポイントです。

求人票の書き方の例

- 職種名:臨床検査技師(検査・受付事務兼務)/正社員
- 仕事内容:採血、心電図、超音波検査などの検査業務と、受付・会計・予約管理などの事務業務
- キャリア:入職後3年程度で事務の主任、6年目以降は事務長に進む道を用意。検査業務はどの段階でも継続
- 歓迎:新卒、ブランクのある方、他業種の経験者

処遇の工夫

- 事務職と同じ基本給にせず、資格手当で臨床検査技師としての評価を示します
- 段階が上がるごとの役職手当や昇給の基準を決め、求人票や面接で説明します
- 認定資格の受験料や研修会の参加費はクリニックで負担してください

クリニックにとっての効果

キャリアパスがあることで、病院の求人が出たときに辞められにくくなり、育てた人材を長く活かします。

1 少ない人数でも外来が回る

検査と事務の両方を担える人がいれば、少ない人数でも外来を回しやすくなります

2 先生が診察に集中できる

採血や心電図、超音波検査を任せることで、先生は診察に集中できます

3 院内でできる検査が増える

院内でできる検査が増え、患者を他院に紹介する手間や待ち時間が減ります

4 部門間の調整役になる

事務長になった人は、受付事務と検査・処置の両方の現場が分かる管理者として、事務部門と検査・処置部門のコンフリクトを自然と緩和してくれます

注意点

1

一時期でも仕事の全てを事務で埋めてしまうと、資格を活かせない不満から離職しやすくなります。どんなに事務が忙しい時期でも、一部でよいので検査業務を必ず残します(例:心電図、甲状腺エコーなど)

2

技師が院内に1人だけだと相談相手がいません。それ自体はどうすることもできないので、地域の技師会が主催する研修会への参加を勧めてください(費用はクリニック負担)

3

先生からの指示は、プライドを傷つけないように優しくしてください

4

キャリアパスは約束ではなく目安として示し、毎年の面談で本人の希望を確かめてください(主任までは問題なくても、事務長には向いていない人もいます)